

令和8年度第1回いわき市地域共生社会推進会議 議事要旨

1 日 時 令和8年7月16日(木) 14:00～16:00

2 場 所 総合保健福祉センター 多目的ホール

3 出席者(21名)

(1) 委員(敬称略)

内田 広之	山本 美晴
齊藤 道也	荒川 正勝
佐藤 悠太	園部 義博
長谷川 秀雄	石原 きみ子
江坂 亮	遠藤 和子
神永 いつか	草野 祐香利
篠原 清美	田子 一
西山 将弘	長谷川 正江
猪狩 光雄	渡邊 博昭
吉田 憲一	小嶋 沙希子
大倉 智	

(2) 事務局

保健福祉部 部長	佐々木 篤
保健福祉部 次長兼総合調整担当	阿部 通
保健福祉部 次長兼健康づくり・医療担当	酒井 光
保健福祉部 保健所次長	中村 寛
保健福祉課 参事兼課長	佐藤 浩
障がい福祉課 課長	沼田 浩
健康づくり推進課 課長	鈴木 英規
地域包括ケア推進課 課長	根本 健男
高齢福祉課 参事兼課長	山廻邊 直人
保健所 地域保健課 参事兼課長	門馬 将洋
こどもみらい部 部長	市川 雅子
こどもみらい部 次長兼総合調整担当	鈴木 隆宏
こども政策課 課長	金賀 加容子
保育・幼稚園課 課長	木村 大輔
こども家庭課 課長	赤塚 典子

4 会議の概要

(I) ゲストスピーチ（㈱いわきスポーツクラブ 地域推進マネージャー 吉崎 沙紀 氏）

ゲスト	「立場を超えてつながり、認め合い、支え合う」～ 震災の経験から考える地域共生社会 ～ についてスピーチ
会長	㈱いわきスポーツクラブは、地域づくりと一緒に進めていくパートナーとして、欠かせない存在だと日々感じている。 吉崎さんからは、震災で学んだ様々な経験から、これからのまちづくりに貢献して恩返ししたいという気持ちを強く感じた。 また、地域共生社会の実現に関わる、認知症サポーターなどの福祉分野との具体的な連携事例などもご説明いただいた。 皆さまから、ご意見・ご質問等あるか。
A 委員	最前線で地域に関わっている非常に大事な部署で働いており、広報誌などを担当している。 スピーチを聞いていて一番印象に残ったのは、当時は笑顔が少なかったが、今は笑顔が出せるという言葉が頭に残っている。これからも頑張ってほしい。
B 委員	震災時、大変な想いをされてきたんだなと思った。 勿来町酒井地区では、双葉郡の方々が住む復興公営住宅が 144 戸整備されているが、地元の方との交流が課題であった。令和 2 年から、地域と一緒にさつまいもの苗植えや収穫体験を行ってきたことにより、日頃から、お互いの情報交換ができるようになってきたり、新たに若い人たちが中心となってお祭りをやってみるといったことにつながった。こういうところから、地域共生社会が進んでいくといいなと思った。
C 委員	私の子どもたちは、ゲーム機を触らずにテレビでいわき F C の試合を見たり、通っている保育園では、好きないわき F C の選手の名前を言い合ったりしている。地元 to J リーグのプロクラブチームがあるというのは子育て世代から見ても貴重な存在だと思う。
D 委員	話を聞いていて、いわき市民として震災当時は大変な想いをさせてしまったんだなと感じた。 これからスタジアムを作る計画があると思うが、障がいのある方もスポーツ観戦しやすい視点も地域共生社会を考えていく上で

	は、大切だと思う。
会長	震災を経験して一人ひとり乗り越えてきたまちだからこそ、助け合いのコミュニティができてきた。地域共生社会を考える上で、重要な視点だと改めて感じた。
E 委員	本日のゲストスピーチのように話しやすい雰囲気づくりや、認めてもらいやすい雰囲気づくりも地域共生社会には大切なことだと感じた。
会長	災害を経験しているまちだからこそ、防災の先進都市でありたいと考えている。今回、吉崎さんの話を伺って、人と人とのつながりや助け合い、震災を乗り越えてきたからこそ、共感できたり、情熱を持てるようになることを感じさせていただく大切な話だと感じた。
ゲスト	本日、皆さんからの感想や意見を聞きながら、震災当時は、東京電力社員として住民対応していた時は笑顔を見せられなかったが、皆さんの前でこうして話をできるようになったことは私自身大きい変化だと感じている。 こうして皆さんと震災当時からこれまでの想いを共有したり、つながりが持てたこと、このような機会をいただいたことに感謝している。
会長	これから地域福祉計画を検討していく中で、いわき市ならではの部分などを考えるにあたり、とても参考となる話であった。

(2) 地域福祉計画について

事務局	資料2について説明
会長	本日は資料2の9ページまでの部分について、皆さまからのご意見・ご提案を踏まえて決定していきたい。10ページ以降については、皆さまからのご意見・ご提案を踏まえて引き続き検討していく部分としている。 皆さまから、ご意見・ご提案等はあるか。
F 委員	地域共生社会の取組みについて、国が重層的支援体制を考える中で、全国的に社会福祉協議会に丸投げといった事例を聞く。少

	子高齢化で、福祉関係に関わる担い手が減っていくので、こういった負担を真剣に考えていかなければならない。2040 年までの成果指標を掲げているが、いち早く対応していかなければならない課題だと思う。
会長	現時点での原案を見てみると、地域福祉計画として記載する内容や地域共生社会などについて広く網羅はされているが、いわきならではの部分について、現時点でここまでできているが、どんな課題があって、2040 年に向けて何が必要なのかといった視点などについてあってもいいかなと感じている。 他自治体と比べた場合にどこが違うのか、指標はあるものの文章としてもいわきの課題が見えてくるといいかと思う。
D 委員	人口減少社会にあって、行政サービスを利用する市民といったお客様の感覚や関係を変えていかなければならないと思う。 行政自体もこれから縮小し、多様な課題がある中で、行政のみが行うのではなく、行政と市民が一緒になって課題に取り組む姿勢が必要になる。 これだけ急速に人口減少が進んでいく時代では、消費者も減少することで税収も減少、市職員も減少していく。行政から市民に支え合いや助け合いを訴えかけることが必要である。市民参画を訴えかけるようなビジョンになるといいと思う。
会長	震災を経験してきたいわき市ならではのことだと思う。重要な視点だと思うので、ビジョンの考え方等に反映できるといいと考える。
G 委員	市民みんなで本気で取り組んでいかないと、10 のまちの姿は達成できないと感じている。 また、サポートする人の支援の部分についても必要だと感じている。病院で入院されている方を見ていると、様々な社会背景を持った方がいる。例えば、いざ入院となった時に金銭的な面で課題があったり、高齢者が入院されてきたが、意思決定する方も高齢者で認知症であるケースなど、意思決定が迅速にいかない中で、成年後見人の申請などに時間を要してしまったり、医療の動きと制度の動きにズレを感じている。 さらに、福祉に携わる人が今のままだと高齢化が進んでいくので、人材をどう確保していくのかといった点などは、本当に大事

	な課題だと感じている。
会長	福祉的にも大事な視点である。地域コミュニティの中で福祉的な取り組みもいわきならではの取り組みなので、ビジョンに反映できるといいと思う。
C 委員	2040 年のまちの姿という未来の内容になると、定性的な内容が多く、定量的な数値としてなかなか見えづらいところはあると思う。危機感とか自分ごととして考えるとすると、例えば、2040 年の高齢化率が何パーセントまで減少することが想定されるから、こういう取り組みが必要など、できれば定量的な数値を入れていただけるとよりたくさんの方が危機感を感じてくれると思う。
会長	いわきならではの社会的な指標やデータがあるとわかりやすいと思う。
H 委員	様々な課題を抱える世帯だと、社会との接点がなくなってしまう。ボランティア活動や居場所などの取り組みとつながりを持てるような情報発信ができればいいと思う。
I 委員	ベースになるのは、お互いがお互いを認め合って、その人たちがありのままの姿を受け止めていく社会につくることだと思う。いわきのまちづくりビジョン自体がコミュニティということを打ち出していくことが大前提で、その中で地域福祉計画も同じ考え方でつくっていくということが必要である。他自治体と比較してどうかではなく、そういったことを基本理念や基本目標などの中で整理していくことがいわきらしさにつながるのだと思う。 また、具体的な取り組みを見ると、必要だとは理解しながらも現実的には難しいこともある。2040 年に向けて人口減少が進んでいく中で、ますます厳しい状況になると思う。 このような中で、どう創意工夫して私たちがみんなで地域共生社会に取り組んでいくのかということを共通のものとして整理していく必要がある。
会長	根本的な価値観の共有は大事である。
J 委員	人口減少の中で、どれだけの人材・予算が必要かを考えていく必要があると思う。様々な取り組みを行政だけで進めていくことは

	難しいので、地域の人材や資源を把握しつないでいくことが必要で、必要なニーズや不足するニーズなどを把握して進めていかなければならない。
会長	地域資源を見える化をしてどうつなげられるかといった視点、震災で培った絆やコミュニティ力などの共通価値をイメージしていく必要があると感じた。
K 委員	多様性として、お互いに認め合うこと、ジェンダーのことなど、そのあたりをもう少し書いてもいいのかとも思う。 全体的にわかりやすく示されているが、表現の仕方もしいないが、もう少しいわきらしさみたいなのが見えてくるといいかと思う。
会長	いわきらしさ、いわきで工夫する部分など、データの的に全国的に見て低いから始めていくなど、本市ならではの現状認識も必要なのかもしれない。
L 委員	外国人も含む多様性の部分をもう少し入れていただくといいかと思う。また、19 歳の女性の市外流出率が全国的に見てもいわき市は高く、食塩摂取量が県内で 1 番高いのもいわき市のなので、それも課題の部分でいわきらしさかと思う。
M 委員	人を中心とした社会が求められていると感じている。本ビジョンも人を中心とした成果指標が設定されている。 一方で、世界的に見ると日本は多様性を強く求める社会であり、人口減少は社会的な問題になっている。急速に A I が進行する社会の中では、確かな人間力が問われているのだと思う。 全国的に見ても福島県は、喫煙率が最も高く、検診受診率が最も低いなど、健康に対する知識やリテラシーが低いと思う。 こういったビジョンを作っていくことは大切だが、いかに一人ひとりに浸透させて伝えていくのかも同時並行で考えていく必要があると思う。
会長	しっかりと受け止めていきたい。 時間の都合上、このあたりで終わらせていただくが、改めてご意見がある場合は事務局に届けていただきたい。

以上